

**OpenID最新動向と
OpenIDファウンデーション・ジャパンの活動について
～カンタラ・イニシアティブ ジャパン・ワークグループ発足に寄せて**

2009年7月14日

**一般社団法人OpenIDファウンデーション・ジャパン
発起人代表 崎村 夏彦**

**(株式会社野村総合研究所 情報技術本部
技術調査部 上級研究員)**





14 juillet 2009
À 220ème anniversaire
de la révolution



Kantara Initiative 発足

および

カンタラ・イニシアティブ ジャパン・ワークグループ 活動開始

おめでとうございます

ここで、簡単に自己紹介を・・・

Kantara Initiative 理事（理事企業の野村総合研究所(NRI)からのKIに対する代表者。）

カンタラ・イニシアティブ ジャパン・ワークグループ
及びディスカッショングループ発起人のひとり。

OpenID Foundation コミュニティ理事

OpenIDファウンデーション・ジャパン 発起人代表

XDI.ORG※ 副理事長

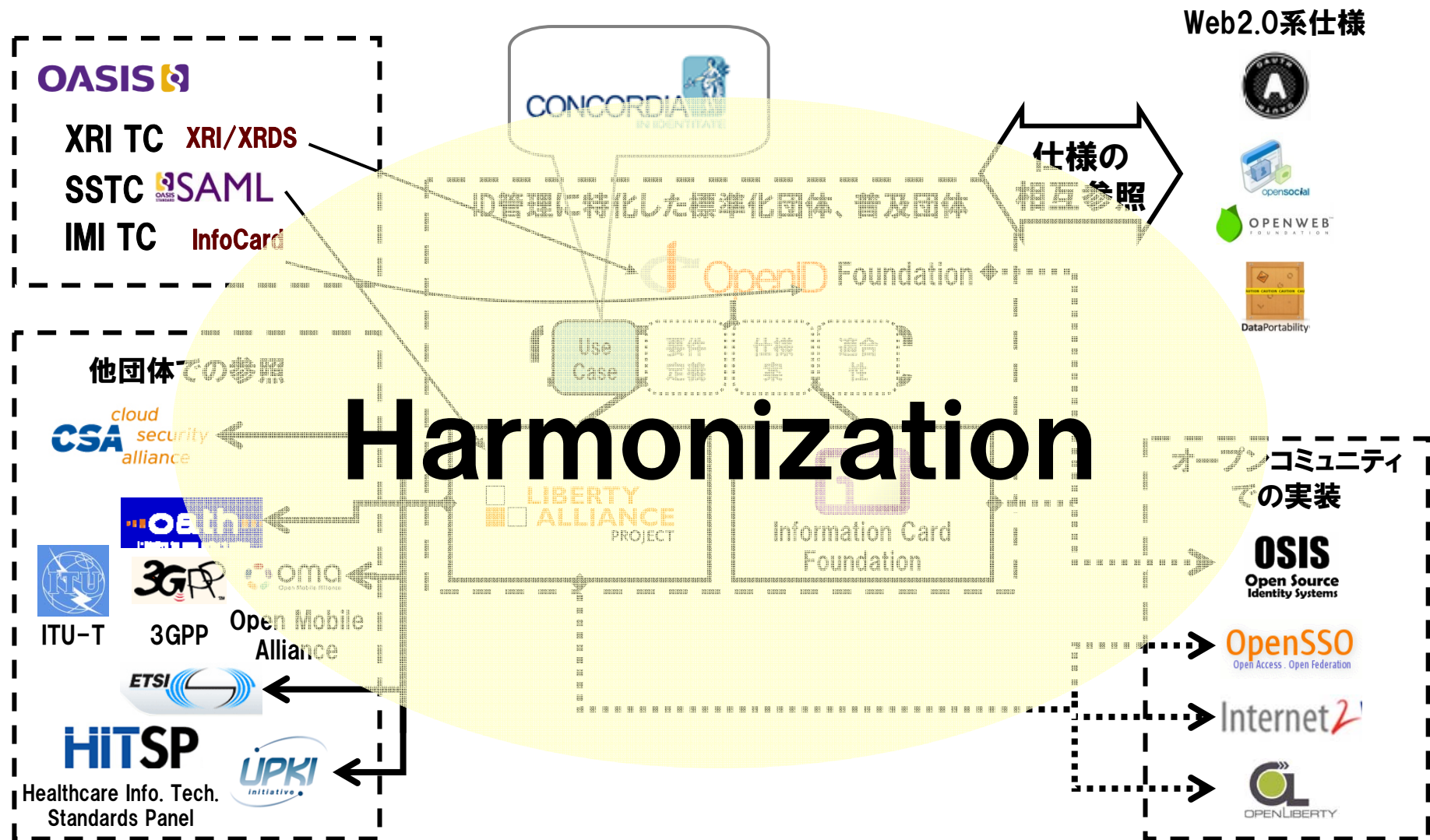
※XML関連の標準化団体Organization for the Advancement of Structured Information Standards(OASIS)の開発するDigital Identity規格XRI/XDI推進団体。OpenID 2.0 は、XRI規格の中のXRDSおよびXRIを利用している。

OASIS Open Open Reputation Management
System技術委員会 共同議長

OASIS Open XRI技術委員会 XRD 1.0 Editor



これまでのID管理技術関係団体



日本におけるID管理技術関係団体の活動



**OpenIDファウンデーション・ジャパンは、
リバティ・アライアンス日本SIG同様
カンタラ・イニシアティブ ジャパン・ワークグループとも
パートナーシップを継続していきます**

認証連携に向けた取り組み

OpenID – SAML相互運用

- Concordia Discussion Group にて実施
- SAML、Liberty Alliance、OpenID、Information Card 等、異なるID管理方式で構築されたシステムに跨がるサービスを提供する際に必要な技術要件／仕様間のコンテキスト変換方式等について議論を行う。

例：多要素認証を必要とする OpenID RP(被認証サーバ)へのログインの際に、一部の認証をSAML IdP で実施する

Identity Assurance Framework (IAF)

- Identity Assurance and Accreditation Work Group にて実施
- ウェブサービス間の認証、アクセス制御の相互運用を実現する
 - ・ 「認証(という行為)の保障レベル」の記述方式の規定
 - ・ 各保障レベルに応じて必要となる実装／管理運用体制に関する規定
 - ・ 各々のウェブサービスが保障レベルを満たしていることを認定する検証プログラムの実施(予定)

ご存知の方も多いかもかもしれませんが

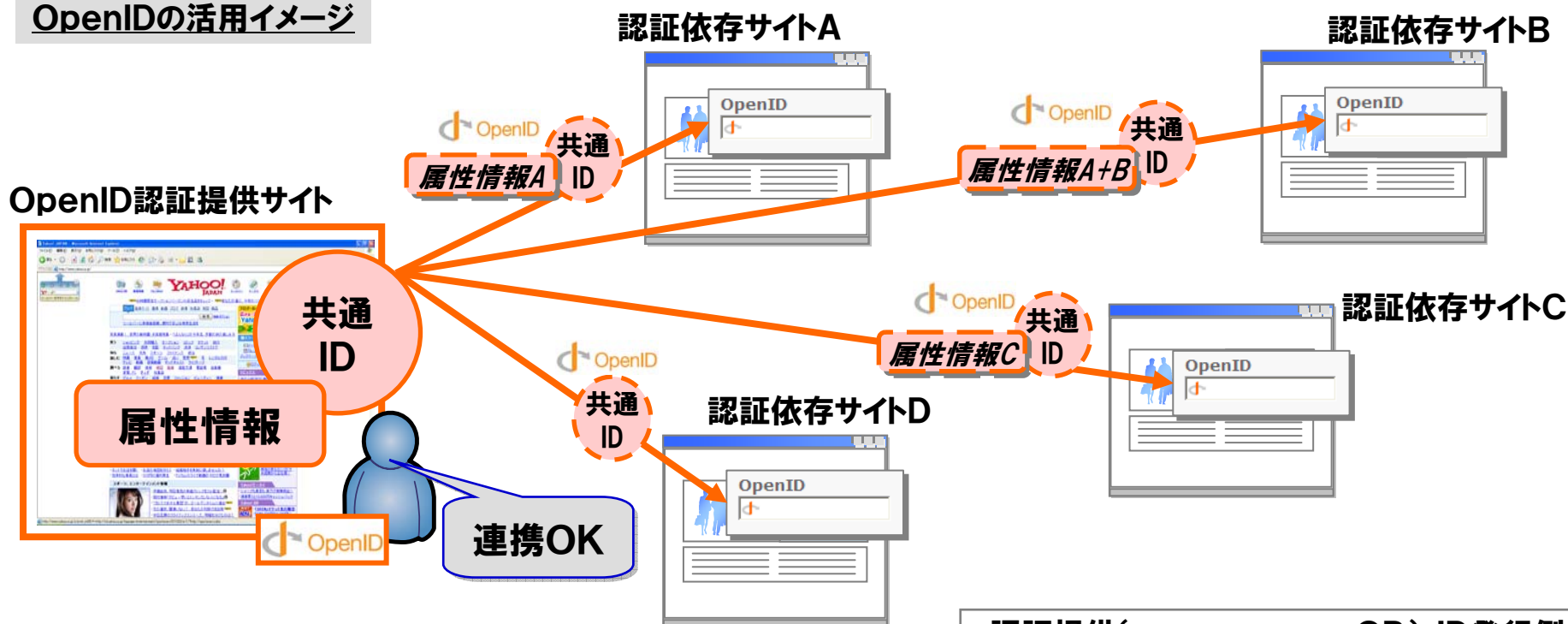
改めて……  OpenID

OpenIDとは

共通のユーザープロフィール(ID、属性)を複数のネットサービスで使用可能とする規格。

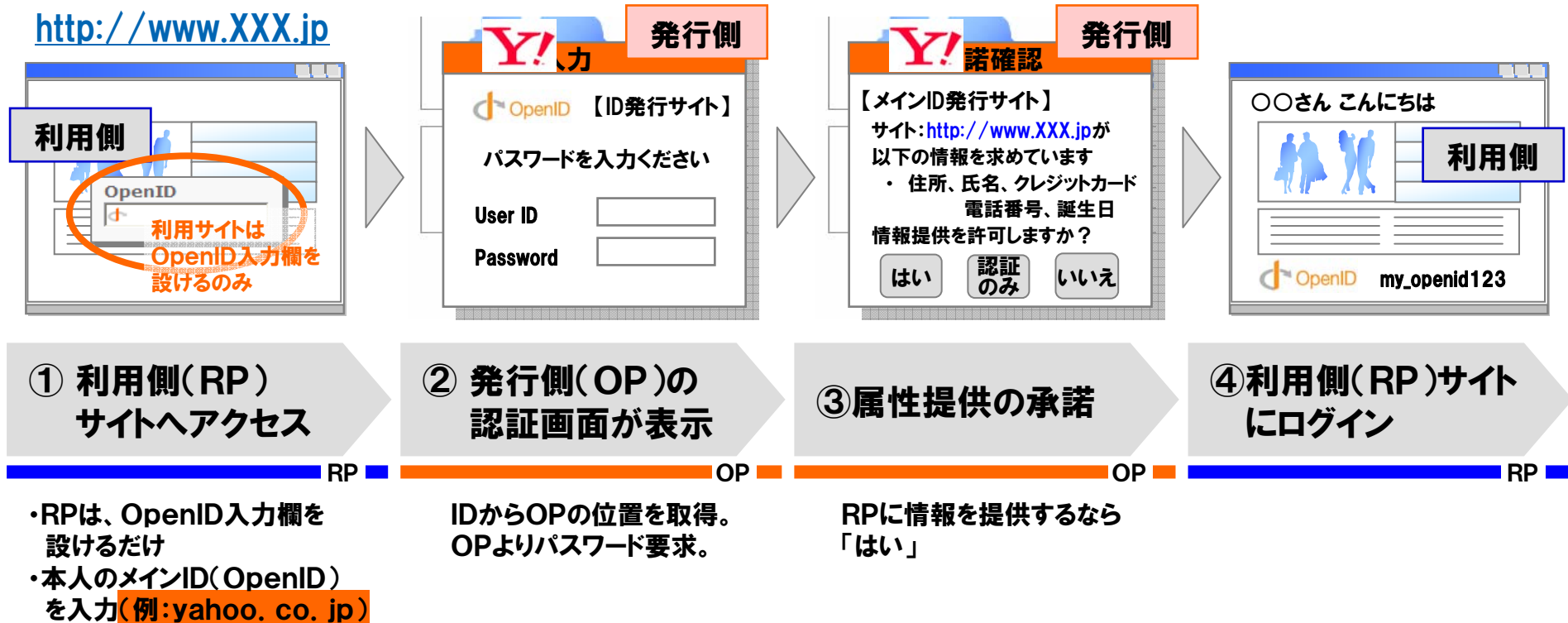
OpenID対応サイトで一度ID登録をすれば、他の対応サイトで新規登録することなく、同じIDでログインできるとともに、登録情報(属性情報: [例] 氏名、住所、...カード番号)をユーザ指定で連携。

OpenIDの活用イメージ



認証提供 (OpenID Identity Provider OP): ID発行側
認証依存 (Relying Party RP): ID利用側

必要な時に、必要なだけ、自身の承諾をもとに、
 OP(認証提供)に蓄えた個人情報を、RP(認証依存)へ提供することができる。
 ~ユーザの同意に基づかない属性情報(性別、TELなど)提供はされない。



認証提供(OpenID Identity Provider OP):ID発行側
 認証依存(Relying Party RP):ID利用側

OpenIDの特長



- HTTP/HTTPS上で実現される、シンプルな認証プロトコル
 - ・ IDはURL (ex. "www.yahoo.co.jp/nomura")
- ユーザ自身がメインに使いたいIDを他のプロバイダも利用することが可能
 - ID発行側: 認証提供 (OpenID Identity Provider OP)
 - ID利用側: 認証依存 (Relying Party RP)
- 中央集権的なIDサーバを必要とせず、相互に連携

OpenIDの歴史

Web2.0時代の新しい認証プロトコル。
圧倒的支持により、消費者アプリケーションでの認証スタンダードとなりつつある。
OpenID2.0等の仕様策定により、いよいよエンタープライズ活用が視野に。

2005年	米SixApart社(ブログ用ソフト最大手)チーフ・アーキテクトのBrad Fitzpatrick氏が発明
2005年秋	Internet Identity Workshop(IIW)で紹介される
	VeriSign、JanRainなどの技術者たちがOpenID認証プロトコル仕様の標準化を推進
2006年 5月	OpenID1.1リリース
	ブログ、SNS系サービスなど、消費者アプリケーションにて順次採用
2007年 1月～	Microsoft、AOL、Symantec、VeriSignなど大手がOpenIDの採用を発表
2007年 6月	OpenID規格の策定や推進を行うOpenID Foundation(OIDF)設立
2007年12月	OpenID2.0リリース
2008年 1月	Yahoo!がOpenIDサポートを表明
	Wikipedia、FirefoxがOpenIDへの対応を表明、ApacheOpenIDモジュールリリース
2008年 2月	Google、IBM、Microsoft、VeriSign、Yahoo!が理事企業としてOIDFへ参加

OpenIDの普及

【OP – OpenID Provider: OpenID発行サイト】

世界では、14.4億を超えるID発行・流通。

- Microsoft Windows Live IDは、現在試験運用中
- GoogleはGoogle AppsでのOpenID対応を表明
- FacebookもOpenID Foundationに参加

【RP – Relying Party: OpenID利用サイト】

続々と増加中。

世界で45,000サイト突破

**クレジットカード情報や医療情報の提供等を伴う、
高付加サービスでの採用も。**

OpenIDの普及～最近のトピック(世界)

Yahooが対応を表明。Yahoo!ID保有者が全てOpenIDの持ち主に(2008.1.17)

Googleが**Google AppsでOpenID対応**を発表(2009.7.9)

フランステレコム(France Télécom:Orange)がOpenIDに対応(OP, RP両方)

リトアニア政府が国民IDカードの"eID"をOpenIDに対応(2009.1)

WikipediaがOpenIDへの対応を表明

FirefoxがOpenIDへの対応を表明

MicrosoftがWindows Vista搭載の認証管理機能「CardSpace」にOpenIDを統合

SixApartがOpenIDを採用したオンライン認証サービスtypekeyを提供

VeriSignがIdPサービス「PIP」にて試験提供開始

Sun Microsystemsが従業員システムのSSO(シングルサインオン)として、
社員IDをOpenIDに対応

世界最大のOSS開発サイト「SourceForge.net」がOpenIDに対応

IBMがOpenIDに対応した「Tivoli Federated Manager」を発表(2008.5.20)

ルーマニア政府が全ての公開WebサイトにOpenID導入

ドイツテレコムがOpenID対応を表明(2008.9)

NTTがOpenID対応を表明([2009.5.13](#))

OpenIDの普及～日本国内のトピック

ヤフー、Google、ミクシィ、NECビッグロブ、Livedoor、エキサイト、はてな 等がOpenIDを発行。

- Yahoo!Japanのアクティブユーザー数2,000万以上。
- Mixiのユーザ数は1,000万人以上
 - ・Mixi内でのサービス間連携のためにもOpenIDを利用。
- はてな、「はてなスター」サービスでOpenIDに対応。
 - ・OpenIDをもつ他社ユーザがコンテンツに「星をつける」ことが可能に。

日本IBM、NEC、NRI、SixApart などがOpenID対応製品を発売中。

非IT企業である日本航空が、ミキ・ツーリストのホテル予約連携としてOpenIDを活用、JALマイレージクラブ会員向けサービスを充実。



2008年10月1日
OpenIDファウンデーション・ジャパン(OIDF-J)
設立

一般社団法人 OpenIDファウンデーション・ジャパン(英語名:OpenID Foundation Japan)

- 国内におけるOpenID技術の普及・啓蒙
- OpenID技術の国際化の支援ならびに仕様の日本語化

OpenIDファウンデーション・ジャパン活動骨子

■ビジネス面

- ・ビジネスセミナー「OpenID BizDay」の実施
- ・国内外のケーススタディ収集・勉強会(視察報告等 予定)
- ・統計情報、アンケート(独自調査を実施)
- ・ビジネスアイデアコンテスト
- ・法務面の研究、勉強会 等

■技術面

- ・技術セミナー「OpenID TechNight」の実施
- ・実装ガイドラインの策定
- ・追加仕様提案
- ・各種ドキュメントの日本語訳
- ・実証実験、技術コンテスト
- ・ワーキンググループ(ユーザインタフェース、アシュアランス、決済など) 等

■PR等

- ・メディア向け～プレスセミナー/プレスレター
- ・TechNight/BizDayの活用
- ・(外部)協賛セミナーの実施
- ・オフィシャルサイトでの情報発信
- ・会員企業プロモーション支援 等

具体的な活動
については、
会員の皆様と
協議のもと
推進

OpenIDの新たな取り組み ～CXワーキンググループ

OpenID CX(Contract Exchange Extention)

- ・エンティティ同士が動的に契約書の交換を行なうための仕様
- ・契約に基づき、エンティティ同士が「取引」(データ交換)

【特長】

否認防止と改ざん防止/秘匿性、メッセージ全体の暗号化/契約書の形式、内容を任意に定義/
モバイル対応/非同期メッセージング/「ユーザの意思」を活かすための応用の考慮

- 2007年 12月: 「OpenID 2.0」が確定するも、暗号化や署名、利用目的の明示等の対応が不十分
同年同月: NRI が Trusted Data Exchange (TX) 仕様を提唱
- 2008年 5月: NRIが TXを実装し、商用環境に適用(JALへの実装、運用開始)
- 2008年 11月: TXをより汎用的に改良した CX仕様の標準化に向けWG設立の動きが活発に
- 2009年 2月: 米国 OIDFにて CX WG 設立が承認
- 2009年 3月: 上記を受け、**OpenIDファウンデーション・ジャパンにて CXワーキンググループが発足**

【目的】

CXの国内意見の一定の集約ならびに活用促進検討

- ・実効性のあるCX仕様の策定の促進
- ・CX 適用のユースケースの集約・整理・検討
- ・米国仕様策定WGへの提言

- 2009年 6月: 米 CX WGが設立、仕様策定の活動がスタート

次世代Discoveryプロトコル～XRD1.0

- @OASIS Open XRI TC
- Schema はほぼ決定
- Signature も決定
- Trust Section を記述中
- 9月目標

- OpenID, OAuth などでの利用の予定

XRD 1.0 の例

```
<XRD xmlns="http://docs.oasis-open.org/ns/xri/xrd-1.0" xml:id="foo"
  expires="2009-07-14T00:00:00Z">
  <Subject>http://example.com/gpburdell</Subject>
  <Link>
    <Rel>http://spec.example.net/auth/1.0</Rel>
    <URI>http://services.example.com/auth</URI>
  </Link>
  <ds:Signature
    xmlns:ds="http://www.w3.org/2000/09/xmldsig#">
    ...
  </ds:Signature>
</XRD>
```

お問い合わせ先



OpenIDファウンデーション・ジャパン

Tel : 03-6267-9122

Fax : 03-6267-9111

Email: contact@openid.or.jp

URL : <http://www.openid.or.jp/>



